

平成31年度

(令和元年度)

「運営に関する計画」

(最終反省)

大阪市立堀江中学校

令和2年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○ <<生活指導の充実・基本的な生活習慣の定着>>

5つのとりくみ(「あいさつ」「時間」「服装」「言葉づかい」「清掃」)の習慣を自主的に発揮できるように、さまざまな場面で生徒へ意識させている。特に、「時間を守ること」への意識向上について、クラス、学年、学校全体へと促してきた結果、全校集会のスムーズな開始、チャイム着席の定着など、学校全体としての意識は高まってきている。また、毎月、全学年一斉に遅刻指導日を設定し、遅刻の多い生徒への指導とともに、遅刻連絡カードを利用した保護者への協力要請を継続していることで、遅刻指導の対象生徒数は多い時で全学年6～7名程度である。しかし、中には、本人の生活習慣の乱れ、家庭環境の不備などによる遅刻の常習化等、改善が困難な生徒が一部にみられるため、今後も基本的な生活習慣の定着に向けて実施する。

また、昨年度の校内調査における「学校の決まり(校則)を守る」という項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と肯定的に答えた生徒は1年生が97%、2年生が88%で、3年生が93%と1、3年生は高い数値を示している。2年生が目標数値の90%に達していないが、一昨年度より4%増加しているので今年度目標数値に達することに取り組む必要がある。

さらに、H29年度→H30年度で示すと、暴力行為は4件→0件となり、生徒達に対して適切に指導を行い未然に防いでいることができています。ただし、不登校生徒については25名→30名と年々増加しており、課題に向けて引き続き、保護者および関係諸機関(子相・区役所・SSW等)との連携を強化していく必要がある。

○ <<防災・減災教育の充実>>

防災訓練は、毎年、地震・津波を想定した訓練と火災を想定した訓練を実施している。また、2年生の総合の時間で消防署・地域と連携した防災訓練(心肺蘇生も含む)を実施し、防災冊子や資料をもとに防災学習を通して防災意識を高めた。職員には防災計画や防災冊子を配布するとともに緊急対応の方法を周知し、AEDを使った救急救命研修も実施した。昨年度の学校評価アンケートの「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の肯定的回答は全体が85%で、前年度より3%減少した。1年91%、2年77%、3年88%であった。全学年が目標値の90%を達成できるよう方策を改善する。

○ <<人権教育の充実>>

学校評価アンケート(生徒)より「命の大切さや社会のルールについて十分に学んでいる」と「人権の大切さについて十分学んでいる」の肯定的回答は1年91%、2年83%、3年95%だった。「子どもたちは命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的回答は1年92%、2年84%、3年95%で、目標の85%以上は概ね達成した。学校評価アンケート(保護者)より「子どもたちは人の生き方や豊かな心のあり方について学んでいる」の肯定的回答は1年が83%、2年と3年はともに86%で、目標の85%以上は概ね達成した。『大阪大空襲』について学んだ平和学習会、3年の妊婦体験、『乳幼児ふれあい体験(ピョピョクラブ)』、視聴覚障がいテーマにした1・2年の盲導犬の取組など、多様な取組を通して様々な人権について学習することができた。

○ <<道徳教育の充実>>

ここ数年、学年教員全員がクラスをローテーションしていく方式で授業を展開した結果、「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」の教職員の肯定的回答は88%と、目標の90%にかなり近づくことができています。また、各教員が読み物教材以外の教材等を用いた道徳授業を模索する等の研鑽を進めており、その結果「道徳授業の工夫・改善に努める」の教職員の肯定的回答は94%になった。今年度は道徳が教科化され、これまで以上に教員が展開する道徳授業の質の向上と量(授業時間=年間35時間)の確保が求められる。

○ 《自尊感情・自己有用感の育成》

学校評価アンケート（生徒）より「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について、肯定的に回答した割合は1年 60→68%、2年 75→57%、3年 75→65%であった。「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的に回答した割合は、1年 87→97%、2年 90→86%、3年 96→89%、「自分にはよいところがあると思う」の項目について肯定的に回答した割合は、1年 73→81%、2年 68→59%、3年 93→72%という結果であった。全体としていずれも目標値にはとどいていない。

学校での教育活動としては、2年生による地域清掃、職場体験、土曜授業での防災訓練、乳幼児ふれあい体験、図書館開館等の学校元気アップ事業による活動等が関連している。また、地域行事の際、地域住民として自らボランティア活動に参加したりなど、地域貢献している生徒も多く見られる。地域の人々と連携して活動することで、地域住民としての自覚をもたせるとともに、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めさせる活動が今後も大切である。地域との連携によりボランティア活動の推進を図ったり、小中連携・地域連携による地域行事参加や音楽コンサートを実施したりすることで、人と人との交流を通して心豊かな青少年の健全育成を旨としている。全学年が 90%以上になるように今後、取組をすすめていきたい。

○ 《家庭学習の習慣化》

昨年度の学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は指標の 75%を達成できなかった。今年度以降は、家庭学習の重要性をしっかりと教え、家庭学習の方法を身に付かせる手立てを企てていく必要がある。

○ 《主体的・対話的で深い学びをめざした「わかる・楽しい授業」の創造》

授業に関しては、昨年度の生徒の学校評価アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合は、1年生は 81%、2年生は 72%、3年生は 80%で、全学年とも指標の 85%を達成できなかった。保護者の学校評価アンケートの「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は 74%、2年生は 76%、3年生は 77%、「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は 76%、2年生は 82%、3年生は 73%となっている。2年生の保護者の「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」の指標のみ 80%を達成できている。学力向上をめざして「わかる授業」の実現のために、P（計画）D（実施）C（見直し）A（改善）を図り、さらに授業の工夫と改善が必要である。

○ 《健康な生活・体力の向上》

昨年度の健康な生活アンケートで「意識して健康な生活をしている」については、肯定的回答の割合が全学年、男女とも 60%~71%にとどまり依然低い数値である。様々な機会を通して、情報提供や啓発活動を行わなければならない。平成 29 年全国体力・運動能力、運動習慣調査結果より、男女ともに課題であった全身持久力を示す 20Mシャトルランについては、昨年度→今年度を示すと、男子 75.16→80.75(+5.59)、女子 53.01→53.73(+0.72)とアップした。

○ 《開かれた学校の構築》

学校評価アンケート(保護者)の「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」という項目で、1年 93→90%、2年 82→93%、3年 87→88%で、全体では 90%あった。通信やホームページ等で行事や生徒活動の情報を提供しているが、中には学年行事関係の配付プリントをできるだけホームページに掲載してほしいという要望もある。さらに、ホームページの有効活用についての見直しと改善が必要である。

○ 《言語力や表現力、論理的思考能力の育成》

言語力や表現力、論理的思考能力の育成をねらいとして、テーマを与えて「書く」「描く」「発表す

る」機会を設定し、推進している。言語活動に関する各種コンクールの参加・出品については、教科の授業で取り組んだり、夏期休業中の課題として生徒が自由に選択して取り組んだりできるよう工夫している。

平成 30 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数について、平成 29 年度よりも参加数は約 1,900 名から約 1,230 名に減少したが、入賞者数は 23 名から 29 名に増加した。入賞者等についてはHPや全校集会等でも紹介し、このような外部のコンクール等の機会を活用し自主的に取り組ませることで、生徒の関心・意欲・態度を高め、言語力や表現力、論理的思考能力の育成を図っていく。

教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒にすすめることや、全校集会等で表彰しHPでも披露すること、学習活動に有効活用することで生徒の関心意欲の向上や言語活動の充実が図られている。なお、令和元年度の現在の参加状況等については次の通りである。

検定・各種コンクール・コンテスト・発表等の結果について

内容項目・タイトル	H30 年度	入賞者数	H29 年度	入賞者数
英語検定	85 名	2 級 (5 名) 準 2 級 (9 名) 3 級 (26 名) 4 級 (25 名) 5 級 (20 名)	76 名	
漢字検定	42 名		97 名	
税の作文	3 年全員	8 名入賞 (内 1 名代表で朗読)	3 年全員	6 名入賞 (内 1 名代表で朗読)
税の標語	3 年全員	優秀賞 2 名 (3 年)	3 年全員	優秀賞 2 名 (3 年)
JICA国際協力中学生エッセイコンテスト	1 名		3 名	
田辺聖子文学館ジュニア文学賞			5 名 / 8 名	
人権啓発詩・読書感想文			76 名	
学芸サイエンスコンクール ★	書道部門	37 名	10 名 / 358 名	
	小説部門	1 名	2 名 / 3 名	
	詩部門		2 名 / 5 名	
	読書感想文部門	7 名	3 名 / 3 名	
	作文部門	1 名	1 名 / 11 名	
わたしたちのくらしと生命保険作文コンクール	5 名		21 名 / 23 名	
交通安全ファミリー作文コンクール			17 名 / 20 名	
手紙作文 コンクール	はがき部門	13 名	5 名 / 21 名	
	絵手紙部門		20 名 / 20 名	
映画感想文コンクール	14 名			
“社会を明るくする運動”作文			7 名 / 12 名	
思わず笑顔になる文章コンテスト	2 名	優秀賞 1 名	4 名 / 7 名	
河野裕子短歌賞	2 年全員	入賞 2 名	20 名 / 23 名	入賞 2 名 (2 年) 入選 2 名 (2 年) 最優秀校受賞
青少年読書感想文全国コンクール	2 名		53 名	
人権啓発キャッチコピー	2 年全員		1・2 年全員 3 年有志 2 名	優秀賞 1 名 (2 年) 佳作 3 名 (2 年)
私の折々のことばコンテスト	33 名		4 名 / 18 名	
全国小・中学校作文コンクール(読売新聞社)	19 名	入賞 1 名	55 名 / 74 名	佳作 1 名 (1 年)
青春俳句			3 年全員	
産経ジュニア書道コンクール (自主応募)			1 名 (1 年)	中学生以下 ジュニア賞受賞 1 名 (1 年)
全日本小・中学生書道紙上展			1 名	入選 1 名 (2 年) 準ベスト 50
人権啓発いじめ問題キャッチコピー	2 年全員			
絵画・写真コンクール 《絵画の部》	57 名	優秀賞 1 名 (2 年)	83 名	最優秀賞 1 名 (2 年) 特別賞 1 名 (2 年)
大阪市読書感想画コンクール	7 名	優秀賞 1 名 (3 年)	8 名	優良賞 1 名 (2 年)
読書感想画中央コンクール	1 名			
大阪成蹊アート&コンペティション			3 名	銅賞 1 名 (2 年)
ワールドトーク	3 年 2 名		2 名 (2 年)	
大阪市中学校生徒理科研究発表会	2 年 1 名 1 年 12 名	優良 2 年 1 名 佳作 1 年 12 名	1 名 (1 年)	佳作 1 名 (1 年)
大阪市中学校放送コンテスト新人大会			4 名 (2 年)	
計	約 1230 名	29 名	約 1900 名	23 名

2 学校運営の中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の決まり（校則）を守っている」について肯定的回答の割合を95%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を90%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を90%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会（地域）・自然との関わり方について十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を85%以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会（地域）・自然との関わり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を85%以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を95%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を75%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を95%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を75%以上にする。
令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を85%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力向上のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を80%以上にする。
- 令和3年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業でICTを活用して工夫している」について肯定的回答の割合を80%以上にする。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を平成28年度より5ポイント向上させる。
- 令和3年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯を毎日食べている」の肯定的回答を95%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を85%以上にする。

【その他】

- 令和3年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成28年度より増加させる。

3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 31 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会（地域）・自然との関わり方について十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会（地域）・自然との関わり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を 80% 以上、学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を 90% 以上にする。
- 平成 31 年度の芸術鑑賞会後の教員アンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を 80% 以上にする。また、芸術鑑賞後の生徒アンケートで、「楽しく鑑賞できた」という肯定的回答の割合を 80% 以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を 70% 以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を 90% 以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。
- 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。
- 平成 31 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を前年度より 2 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力向上のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で ICT を活用して工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 平成 31 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯を毎日食べている」の肯定的回答を 85%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80%以上にする。

【その他】

平成 31 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 30 年度より増加させる。

4 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- いじめアンケートで平成 30 年度は 24 件、令和元年度は 19 件と数的には減少している。ほとんどが軽微なもので学校が認知しているいじめについてはほぼ解消している。
- 校内調査における「学校の決まり（校則）を守る」という項目において「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と肯定的に答えた生徒は 1 年生が 96%、2 年生が 94%、3 年生が 92%となっている。 ※ 2 年生昨年 97% 3 年生一昨年 84%、昨年 88%
- 暴力行為について平成 30 年度 0 件、令和元年度も 0 件と 2 年連続校外での暴力行為についてはなくなっている。
- 不登校生徒について平成 30 年度は 29 件、令和元年度は 52 件と増加しているが、小学校時からや家庭内が原因での理由が多く、学校だけでは解決することができないため、引き続きこども相談センターやサテライトなどの関係諸機関との連携が必要と思われる。

学校園の年度目標

- 令和元年度の学校評価アンケート（生徒）の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答は 1 年生 89%、2 年生 96%、3 年生では 88%であった。学年によって多少の差はあるが、全学年を平均すると 91%である。学年別に見ると、2 年生は 1 年時の回答より 5 ポイント、3 年生は 2 年時より 11 ポイント高くなっている。防災に関する訓練や情報の提供だけでなく、様々な学校教育の成果として 3 年生の意識が高まったと思われる。2 年生については土曜授業で消防署の方から防災教育を受けた当該学年であったので高い数字になったと思われる。今後は避難訓練や下校班編成などの機会に全校生徒に意識付けを行っていきたい。
- 令和元年度の学校評価アンケート（教職員）の「保健、安全指導は適切に実施できている」と「病気・事故への対応は適切である」についての肯定的回答の割合はともに 100%であった。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会(地域)・自然との関わり方について十分に学んでいる」について肯定的回答の割合は 1 年 85%、2 年 82%、3 年 84%で全ての学年で目標の 80%以上達成した。同じ内容で、学校評価アンケート（保護者）の「子どもたちは学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会(地域)・自然との関わり方について学んでいる」について肯定的回答の割合は 1 年 92%、2 年 91%、3 年 94%で、生徒より保護者の割合の方が高くなっている。学校評価アンケート（教職員）の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合は両者ともに 91%で目標の 90%以上は達成した。
- 平成 31 年度の芸術鑑賞会後の教員アンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答は 97%で 80%以上を達成した。また、芸術鑑賞後の生徒アンケートで、「楽しく鑑賞できた」という肯定的回答の割合は 95%で 80%以上を達成した。
- 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「保護者や地域の人々といっしょになって

学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合は、1年 68→64%、2年 57→64%、3年 65→55%で70%以上にするという目的は全学年ともに達成できなかった。学校での教育活動としては、2年生による地域清掃・職場体験・防災訓練、3年プレパママ体験、1年障がい者学習（車椅子体験、手話・指文字体験、視覚狭窄体験）、学校元気アップ事業による図書館開館等が関連している。また、地域行事の際、地域の人々の前で演奏会を実施することも地域貢献活動であることを自覚させ、人のために役立つ活動を推進する。今後も地域住民の一人として地域を大切にすることを育成し、生徒たちの自尊感情や自己有用感を高めさせていく。

- 平成31年度の学校評価アンケート（生徒）の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合は1年93%、2年93%、3年92%で、全ての学年90%以上で目標に達している。しかし、思いはあっても具体的な行動となると気づかないこともあるため、「今、身近で自分にできる人の役に立つこととは何か」例えば、「スリッパを並べる」「ゴミが落ちていたら拾う」などを、自ら人のためにできること、学校のためにできることを考えさせていくことが課題である。令和3年度目標には95%以上をめざす。
- 平成31年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を75%以上にするについては、学校評価アンケート（保護者）の「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」という項目で、1年90→89%、2年93→86%、3年88→96%で、全体では90%で目標には達している。学年だよりやホームページ等で行事や教育活動、部活動、PTA活動の情報を提供しているが、今後もホームページの有効活用を全教職員で意識していく必要がある。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○令和元年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較した下表をみると、3年生は5教科で1.8ポイント上回っているため目標を達成できた。2年生は3.9ポイント上回っているため目標を達成できた。1年生の3教科の標準化得点は107.3、Plusの社会は市平均より6.7点、理科は3.8点上回った。

《60期生 中学生チャレンジテスト》 現3年生：標準化得点の推移

	H29 1年時	H30 2年時	R01 3年時
3教科	100.9	100.6	100.8
5教科		100.8	102.6

《61期生 中学生チャレンジテスト》 現2年生：標準化得点の推移

	H30 1年時	R01 2年時
3教科	103.1	104.5
5教科		105.7

《62期生 中学生チャレンジテスト》 現1年生：標準化得点の推移

	R01 1年時
3教科	106.1
5教科	

○令和元年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較した下表をみると、3年生は2.0ポイント、2年生は2.1ポイント増加した。

○令和元年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較した下表をみると、3年生は3.9ポイント、2年生は6.9ポイント増加し、前年度を大きく上回った。

《60期生 中学生チャレンジテスト》 現3年生

	H29 1年時	H30 2年時	R01 3年時
7割に満たない(%)	19.0	22.0	24.0
2割以上上回る(%)	29.7	28.9	32.8

《61期生 中学生チャレンジテスト》 現2年生

	H30 1年時	R01 2年時
7割に満たない(%)	12.7	14.8
2割以上上回る(%)	33.7	40.6

《62期生 中学生チャレンジテスト》 現1年生

	R01 1年時
7割に満たない(%)	11.5
2割以上上回る(%)	32.5

○令和元年度の校内調査（「全国学力・学習状況調査」より“生徒質問紙”）における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、前年度より10.5ポイント減少した。

	H30年度	R1年度
堀江中学校	61.8%	51.3%
大阪府	62.9%	67.5%
全国	76.3%	72.8%

○全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を過去3年間で比較すると、男子は80.75→84.49→85.86とH30よりも1.37ポイント上昇し、H29の結果からは5.11ポイント上昇した。女子は53.73→59.75→53.80でH30のみ高かったが、それより5.95ポイント大きく減少し、H29の結果とほぼ同じとなった。男子は目標を十分達成できたが、女子は再び課題が残った。

学校園の年度目標

○学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は65%、2年生62%、3年生は65%であり、すべての学年で達成できていない。2年生は昨年度と比べても肯定的回答の割合は変化していないが、3年生は受験を意識してか昨年より17ポイント上昇した。本校において「家庭学習の定着」はここ数年の重要課題のひとつである。特に、1・2年に対しては、来年度も今年度に引き続き、「家庭学習の定着」にポイントをおいて指導していく必要がある。

- 学校評価アンケート調査の「授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は83%、2年生は77%、3年生は81%、「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は78%、2年生は70%、3年生は71%となっている。指標の85%をすべての項目で達成できていない。この結果を踏まえて、さらに来年度も充実した授業作り（習熟度・TT）の研鑽を推し進める必要がある。
- 学校評価アンケート調査の（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は77%、2年生は80%、3年生は80%、「学校は子どもたちの学力充実のために努力・工夫している」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は84%、2年生は77%、3年生は88%となっており、ほぼ目標を達成できている。
- 平成31年度の「授業でICTを活用して工夫している」について肯定的回答の割合は1年生で88%、2年生で89%、3年生で75%と目標とする80%に3年生のみ届かなかった。ただ、学校全体としては80%越えており、目標とする数値をおおむね達成できているものとする。
- 朝食について、前期のアンケートでは80%の人が食べていると答えている。
3学期の健康生活アンケートの結果、「食事について以前より気をつけるようになった」と答えた生徒は42.6%であった。
「手洗い・うがいを行っている」の肯定的回答は、94.5%となっており、目標を達成できている。

【その他】

- 「言語力や論理的思考能力の育成」「言語活動の充実」「表現力の育成」においては、学校外の各種「コンクール」「発表会」「展覧会」「研究会」等へ参加し、作品を作成し応募する機会をできるだけ多くの生徒に提供している。方法としては、国語科、社会科、理科、美術科を中心に長期休業中の課題として設定したり、学級活動や総合的な学習の時間で取り組んだりして「作文」「感想文」「自由研究」「スローガン」「標語」「絵画作品」等を作成した。生徒会では「情報モラル」について取り組んだことを「パワーポイント」で発表し、それを作品として応募したところ優秀賞を獲得した。また、今年度は漢検に加え、新たに2年生による文章力検定、西区の事業の一環としての英検を校内実施したことで、多くの生徒が受検を体験することができた。入賞者等については全校集会等でも表彰し、HPや通信で生徒・保護者・地域に向けて広く発信し、生徒の作品等の創作に対するモチベーションをアップさせている。
このように、今後も外部のコンクール等の機会も活用し、教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒に勧めることで、生徒の自主性を喚起させ、関心・意欲・態度を高め、言語力や表現力、論理的思考能力の育成、学校目標である学力の向上および個性の伸長をめざしていく。
平成30年度と比較し、参加数は約1,230名から約1,580名に増加し、入賞者数も26名から30名に増加した。なお、今年度の結果等についてはp22のとおりである。

大阪市立堀江中学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】	
全市共通目標(小・中学校)	
○ 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	A
○ 平成31年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。	A
○ 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	A
○ 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	B
学校園の年度目標	
○ 平成31年度の学校評価アンケート(生徒)の「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」について肯定的回答の割合を90%以上にする。	B
○ 平成31年度の学校評価アンケート(教職員)の「保健、安全指導は適切に実施できている」「病気・事故への対応は適切である」について肯定的回答の割合を90%以上にする。	A
○ 平成31年度の学校評価アンケート(生徒)の「学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会(地域)・自然との関わり方について十分に学んでいる」について肯定的回答の割合を80%以上、学校評価アンケート(保護者)の「子どもたちは学校生活全体を通して、自分自身のことや、集団や社会(地域)・自然との関わり方について学んでいる」について肯定的回答の割合を80%以上、学校評価アンケート(教職員)の「計画的、継続的な道徳人権教育が行われている」「道徳授業の工夫・改善に努めている」について肯定的回答の割合を90%以上にする。	A
○ 平成31年度の芸術鑑賞会後の教員アンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を80%以上にする。また、芸術鑑賞後の生徒アンケートで、「楽しく鑑賞できた」という肯定的回答の割合を80%以上にする。	A
○ 平成31年度の学校評価アンケート(生徒)の「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」について肯定的回答の割合を70%以上にする。	B
○ 平成31年度の学校評価アンケート(生徒)の「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目について肯定的割合を90%以上にする。	A

○ 平成 31 年度の学校評価アンケート（保護者）の「学校はホームページ等で情報公開をよく行っている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。	A
--	----------

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・暴力行為の被害の未然防止・早期発見・早期対応に向け、「いじめアンケート」「被害調査」を実施する。(マネジメント改革関連) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめアンケート」は各学期末（年3回）、「被害調査」は2・3学期初め（年2回）実施し、生活指導上の諸問題（いじめ・問題行動等）の件数を前年度より減少させる。 	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関・地域と連携した防災・減災教育、防犯教育を実施し、安全を守るための力を育成する。(カリキュラム改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、防災、防犯についての取り組みを年間3回実施する。 	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内美化を図り、情操面や安全面で落ち着いて安心できる教育環境を整備する。(カリキュラム改革関連) 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（生徒・保護者）で「校内美化や環境整備ができている」の項目について全学年80%以上にする。 	
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業時間を確保するとともに、充実した道徳授業を展開するため、授業の内容と方法に関して、情報交換しながら研鑽を積む。(カリキュラム改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳が教科化されたのに伴い、年間35時間の道徳授業を確実に実施する。 ・学校評価アンケート（教職員）の「道徳授業の工夫・改善に努めている」について、肯定的回答の割合を90%以上にする。 	
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育を通して、生命の大切さや性について正しく理解し、自分自身や他者を尊重できる人材を育成する。(カリキュラム改革関連) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性教育を1時間以上、全学年で実施し、指導案や資料を保存する。 	
<p>取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の伝統文化や芸術を鑑賞する機会を設定し、「観て・聴いて・感じて・体験する」感動体験を通して、芸術に親しみ伝統や文化を大切にする豊かな心を育成する。(マネジメント改革関連) 	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会後の教員アンケートで「生徒の教育活動において有効であった」という回答を80%以上にする。 ・芸術鑑賞会後の生徒アンケートで、「楽しく鑑賞できた」という肯定的回答の割合を80%以上にする。 	A
<p>取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事での演奏や小中合同での音楽コンサート等を実施し、地域の人々との交流を図り、自尊感情や自己有用感を育成する。(学校サポート改革関連) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事での演奏数を昨年度より増やす。 	
<p>取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学年だよりで、学校の状況を平日は毎日公開する。(ガバナンス改革関連) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧数を平均130件以上にする。 	
<p>取組内容⑨【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアや学校図書館補助員と連携し、学校図書館の機能を「読書センター」及び「学習センター」としてさらに高め、学校図書館の活性化を図る。(学校サポート改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用者を平成30年度より増やし、学校独自調査の「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を、昨年度より増やす。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容】について</p> <p>①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 各学期末に「いじめ調査」、長期休業後の学期初めに「被害調査」を実施することで被害を早期に発見でき、速やかに対応することができている。</p> <p>②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 1 学期に消防署と連携して地震と津波の避難訓練、2 学期に緊急時の集団下校の並べ替え訓練、3 学期に震災に関する資料を配布し、各学級で活用した。学年ごとの取り組みとしては2年生が2学期に救急救命及び防災訓練を消防署の方の指導で行い、3年生が1学期に薬物乱用非行防止教室を西警察の協力で開催し、2学期に防災教室を区役所の方を招いて行った。</p> <p>③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校評価アンケート(生徒・保護者)で「校内美化や環境整備ができています」の項目についての肯定的回答は、生徒では1年生78%、2年生75%、3年生50%であり、保護者は1年生86%、2年生85%、3年生82%であった。生徒のポイントが低い原因を考えると校内美化に対して受け身であり、自らきれいにしていこうとする意識に欠けているのではないかとと思われる。古い校舎でもきれいに掃除して大切に使いいこうという気持ちになれば見方も変わり、実際の美化活動も活性化されると思われる。引き続き委員会活動などを通して指導していきたい。</p> <p>④【施策2 道徳心・社会性の育成】(道徳教科) 学校評価アンケート(教職員)で「道徳授業の工夫・改善に努めている」の項目について、肯定的回答が91%であった。教科となって1年目の目標としては概ね達成できたと考えられる。引き続き</p>	

き、授業の内容と方法について工夫や改善に努めていきたい。

⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】(性教育)

1年は生命誕生、2年は男女交際、3年は妊婦体験・赤ちゃんのお世話体験を実施し、性について深く考える機会を設けた。来年度以降も実施できるように資料を保存している。また、LGBT についての講話を2月26日に計画しており、3年に一度学ぶ時間を設けるように定着させたい

⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】

芸術鑑賞会は、音楽・伝統芸能・演劇を1サイクルに、3年間でいずれかを鑑賞できる体制を推進している。今年度は演劇部門を予定し、実施団体を教務部視聴覚担当でいくつか厳選して11月30日に実施した。選定する段階で、行事の目的に則り生徒にとって有意義な鑑賞会になるよう十分に検討することができた。また、教職員・生徒アンケートでも95%の肯定的回答があった。

⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

今年度すでに7回の演奏会を開催、さらに年度末までにあと2回の演奏会が予定されている。大阪マラソンの沿道での応援演奏をはじめとする各地域行事において、保護者や地域の方々との交流を通して、自己有用感、成就感を高め、有意義な行事が開催できた。

⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

ホームページについては学校日記を中心に、生徒活動の様子や連絡事項等、平日のほぼ毎日発信している。日々のアクセス数は昨年度に比べて増加し、今年度1月末までの土日祝日を含む1日当たりのアクセス数平均は192件で、昨年度の177件を上回っている。

保護者による学校評価アンケートの「学校は状況に応じて家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」に対して肯定的に回答する割合は、全学年平均90%で目標を十分達成している。

《HPアクセス数について》

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度(1月末現在)
年間数	45,393	45,804	64,477	58,827
日平均数	124	125	177	192

⑨【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙より「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する生徒の比率を昨年度と比較すると79.4%→64.6%に減少した。

「学校図書館利用者数を平成30年度との比較でみると下記のとおりである。1日当たりの図書館利用人数が、平成30年度に比べて、放課後の利用が1.4名増加しているが、昼休みの利用が5.4名減少、全体で1.6名減少している。放課後の利用が増加したのは、自主学習できる学習ブースはで、テスト前だけでなく平日の放課後も利用する生徒が増えてきたことが考えられる。

読書活動としては、1年生が文化発表会で取り組んだ「ビブリオバトル」、文化委員会の学級文庫活動、図書館だよりの発行、文化委員によるポスター等による本の紹介、図書館補助員による月1回の「おはなし会」、学校元気アップ支援員による昼休みと放課後開館を継続して行った。

図書館利用人数

		平成 30 年度			令和元年度		
		昼休み	放課後	月計	昼休み	放課後	月計
前 期	4 月	107	44	151	44	10	54
	5 月	348	118	466	209	127	336
	6 月	299	217	516	193	121	314
	7 月	123	145	268	88	168	256
	8 月	22	51	73	5	30	35
	9 月	182	65	247	69	158	227
	前期計	1081	640	1721	608	614	1222
	開館日数(回数)	69	92	161	65	83	148
	利用平均人数	15.7 名	7.0 名	10.7 名	9.4 名	7.4 名	8.3 名
後 期	10 月	188	97	285	97	117	214
	11 月	226	133	359	123	170	293
	12 月	131	41	172	100	113	213
	1 月	165	80	245	136	68	204
	2 月	224	75	299	/	/	/
	3 月	9	8	17	/	/	/
	後期計	943	434	1377	456	468	924
	開館日数(回数)	75	87	162	58	64	122
	利用平均人数	12.6 名	5.0 名	8.5 名	7.9 名	7.3 名	7.6 名
年 間	計	2024	1074	3098	1064	1082	2146
	開館日数(回数)	144	179	323	123	147	270
	利用平均人数	14.1 名	6.0 名	9.6 名	8.7 名	7.4 名	8.0 名

次年度への改善点

- ① 「被害調査」「いじめ調査」だけでなく、教育相談や日頃から生徒とコミュニケーションをとることで生徒達が安全で安心して登校できる環境をつくる必要がある。
- ② 地域と連携した防災防犯教育について、各学年の実施時期や時間に関して精選確保していく必要がある。
- ③ 安全を第一に考え、引き続き老朽化した備品の交換、設備の改善を進めるとともに、クラス増や移転を見越して、不要物の廃棄を計画的に進めていく。
- ④ 授業の内容と形式に関しては、各教員が引き続き研鑽を続けていく必要がある。また、授業時間の確保は当然ながら、効果的な評価方法についても、教員間で情報交換をしつつ、さらにスムーズにおこなえるように留意する。
- ⑤ 各学年の授業内容を共有し、学年による偏りがないようにする必要がある。
- ⑥ 生徒たちはプロの影絵を生で鑑賞することやワークショップ体験を味わうことができ、豊かな感受性や表現力を養うのに有効であったと考えられる。来年度は音楽を鑑賞する年であり、事前に予備知識を導入することにより、より生徒にとって有意義な時間になるよう努めたい
- ⑦ 単独演奏のみでなく、小学校と連携できるような形態を考えていきたい。
- ⑧ ホームページのアクセス回数が増加するよう Web 教材の eライブラリへの活用や学校の様々な教育活動の情報や配布プリントの内容について、生徒・保護者にさらに周知し推進する
- ⑨ 現在実施している学校図書館活動をさらに深化・充実させるよう、図書館担当、文化委員会担当だけでなく、全教職員や委員生徒が生徒への声かけを増やし、図書館利用の推進を図る。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
○ 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	A
○ 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。	B
○ 平成 31 年度の【中学校チャレンジテスト】における得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。	B
○ 平成 31 年度の【校内調査】における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。	C
○ 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査におけるシャトルランの平均記録を昨年度より 2 ポイント向上させる。	B
学校園の年度目標	
○ 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を 75%以上にする。	C
○ 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業はわかりやすい」「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」について肯定的回答の割合を 85%以上にする。	C
○ 平成 31 年度の学校評価アンケート（保護者）の「各教科の基礎的・基本的な学力は、身につけている」「学校は子どもたちの学力向上のために努力・工夫している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。	B
○ 平成 31 年度の学校評価アンケート（生徒）の「授業で I C T を活用している」について肯定的回答の割合を 80%以上にする。	B
○ 平成 31 年度の健康な生活アンケートの「朝ご飯はきちんと食べている」の肯定的回答を 85%以上、「手洗いうがいを行っている」の肯定的回答を 80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ・論理的思考力や効果的な表現力を向上させるための方策の一つとして、文章力検定に向けたカリキュラムを実践する。 ・学習ドリルアプリを活用し、校内での自学自習および家庭学習が定着するように工夫する。 ・学習用プリント教材を用意する等、家庭学習が定着するように工夫する。 ・教科会等で連携を取り、習熟度授業、ティームティーチングを充実させる。	

<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業参観等で保護者のアンケートを取り、授業の研鑽を図る。 (カリキュラム改革関連) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内および外部テストにおいて、記述式問題や活用型問題の無回答率を前年度よりも減少させる。 平成31年度の学校評価アンケート(生徒)の「学校の授業の復習をしている」について肯定的回答の割合を75%以上にする。 実施した習熟度授業、ティームティーチングの時間数を、全授業時間数の3分の1を超えるようにする。 土曜授業参観でのアンケートについて肯定的回答の割合を70%以上にする。 	B
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科でICTを活用した授業の実践事例を共有し、ICT機器の効果的な利用を実践する。 プログラミング教育を展開し、楽しくかつ考え方を学び、未来へとつながるIT力を育成する。 (カリキュラム改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業を、1クラス当たり、ほぼ毎日行う。 各教科で実践した、「ICTを活用した授業の実践事例」を総括し、冊子にする。 「授業がわかる」「授業が楽しい」という肯定的な割合を前年度より増やす。 	
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業に全身持久力を高める運動を取り入れ、継続する。 (カリキュラム改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業の中で毎回筋力トレーニングを実施する。 	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健だよりや掲示物などを通じて、意識して健康な生活をするように情報提供や啓発活動を行う。 (マネジメント改革関連) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内の健康な生活アンケートの全項目において、年度末の肯定的回答の割合を年度当初より上昇させる。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容】について</p> <p>① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国学力・学習状況調査では国語の平均無解答率は2.4%【昨年度の国語A(4.3%)、国語B(4.5%)】、数学の平均無回答率は5.9%【昨年度の数学A(3.6%)、数学B(17.0%)】と両方の教科で平均無回答率は昨年度より減少している。3年生のチャレンジテストでも国語4.6%(昨年度19.7%)、社会4.3%(昨年度5.8%)、数学10.5%(昨年度12.1%)、理科4.7%(昨年度8.5%)、英語4.5%(昨年度5.1%)ですべての教科で平均無回答率は減少している。 ●学校評価アンケート調査の「学校の授業の復習をしている」の肯定的回答の割合の結果は、1年生は65%、2年生62%、3年生は65%で、全学年で達成できていない。 ●「授業はわかりやすい」に対する肯定的回答は、1年83%、2年77%、3年81%と全学年で指標の75%を超えている。学校評価アンケートの「習熟度別少人数授業やティームティーチング授業はわかりやすい」に対する肯定的回答が1年78%、2年70%、3年71%と生徒もその成果を概ね感じているようであるが、今年度の指標の85%を下回った。実 	

施した習熟度授業、チームティーチングの時間数を、全授業時間数の3分の1を超えているが、来年度も充実した授業づくり(習熟度・TT)の研鑽を推進する必要がある。

- 土曜授業参観に関しては、保護者アンケートの肯定的回答が1年89%、2年80%、3年89%と指標の70%以上を達成できている。

② 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- 本年度は年度途中で全学年の普通教室にスクリーンを設置したことで、以前よりもプロジェクターや授業用パソコンを使用する資料の提示等の利用が頻繁に行われた。
- 2学期までの「ICTを活用した授業の実践事例」を各教科、各担当の先生方に自己の実践事例を1事例以上作成していただき、それを冊子にまとめた。
- 「授業がわかる」という肯定的割合で、2年生では昨年度の65%→81%と大きく増加し、3年生でも84%→85%と微増している。ただ、1年生に関しては昨年度の73%→64%と10%程度低下してしまった。

③ 【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

毎時間の授業の始まりにランニングを取り入れ、準備運動後には補強運動を取り入れることにより、筋持久力アップにつなげている。

④ 【施策8 健康や体力を保持増進する力の育成】

- 健康についての意識を高めるため、ほけんだよりを毎月発行したり、身近な健康課題を取り上げたりした。掲示物やアンケート結果のプリント配布等、情報発信を行っている。また、保健委員会活動でも啓発活動を行った。
- 健康な生活アンケートの結果、「日頃から食事や睡眠に気をつけ、健康な生活が送れるように意識していますか」について1学期50.0%→3学期74.4%となった。生徒の健康に対する意識が変化し、それが行動に結びついたと考えられる。今後も健康について意識できるよう啓発していく。

次年度への改善点

- ① 「習熟度少人数授業やチームティーチング授業はわかりやすい」に関しては指標に届いていないが、「授業はわかりやすい」は指標に届くなど一定の成果を上げていると考えられる。「授業の復習」に関しては改善を要する。授業で学習したことを繰り返し学習ができ、基礎的・基本的な学力が身に付くよう、また次のステップにつながるよう、家庭学習用課題の工夫、放課後のタブレットを用いた学習アプリの活用など、学校全体や各教科としての取組が今後必要である。
- ② ICTの活用として「資料の提示」という方法では多くの教科で実践されている。それ以外でICTの効果的な活用方法等を作成した実践事例を使って共有し、発展的な使用方を検討していく必要がある。「授業がわかる」という項目でも、複合的な要因が考えられるがICTがその一端を担っていることも確かである。
- ③ 活動場所や体育施設、用具の確保が必要と思われる。また、筋力トレーニングだけでなく体幹トレーニングやコーディネーショントレーニング等も取り入れる必要がある。
- ④ 心身の健康について関心を持つ生徒を増加させると同時に、生徒の健康課題を明確にし、その改善に向けた食育等の取り組みが必要である。

大阪市立堀江中学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>○ 平成 31 年度の言語活動に関するコンクールや検定、各種大会および作品募集等の参加数を、平成 30 年度より増加させる。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動に関する各種取り組みの成果や案内等の情報を伝え、積極的に参加させる。 (カリキュラム改革関連) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 31 年度の学校外のコンクールおよび作品募集や各種検定等の参加数を、平成 30 年度より増加させる。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について

①【言語力や表現力、論理的思考能力の育成】

「言語力や論理的思考能力の育成」「言語活動の充実」「表現力の育成」においては、学校外の各種「コンクール」「発表会」「展覧会」「研究会」等へ参加し、作品を作成し応募する機会をできるだけ多くの生徒に提供している。方法としては、国語科、社会科、理科、美術科を中心に長期休業中の課題として設定したり、学級活動や総合的な学習の時間で取り組んだりして「作文」「感想文」「自由研究」「スローガン」「標語」「絵画作品」等を作成した。生徒会では「情報モラル」について取り組んだことを「パワーポイント」で発表し、それを作品として応募したところ優秀賞を獲得した。また、今年度は漢検に加え、新たに 2 年生による文章力検定、西区の事業の一環としての英検を校内実施したことで、多くの生徒が受検を体験することができた。入賞者等については全校集会等でも表彰し、HP や通信で生徒・保護者・地域に向けて広く発信し、生徒の作品等の創作に対するモチベーションをアップさせている。

このように、今後も外部のコンクール等の機会も活用し、教科および学年担当者が課題設定を工夫して積極的に生徒に勧めることで、生徒の自主性を喚起させ、関心・意欲・態度を高め、言語力や表現力、論理的思考能力の育成、学校目標である学力の向上および個性の伸長をめざしていく。

平成 30 年度と比較し、参加数は約 1,230 名から約 1,580 名に増加し、入賞者数も 26 名から 30 名に増加した。なお、今年度の結果等については p 22 のとおりである。

次年度への改善点

次年度も継続して、思考力・判断力・表現力の育成および言語力の向上を重視し、学校外の各種コンクールや大会、作品応募等を活用し、生徒への課題設定の仕方を一層工夫し、内容を精選するとともに参加・応募を奨励し、全教科・領域の授業および行事等、教育活動のあらゆる場面で言語活動の充実を図る。

検定・各種コンクール・コンテスト・発表等の結果について

内容項目・タイトル	R元年度	入賞者数	H30年度	入賞者数
英語検定	約 200 名受検 (うち 148 名校内) 2 級 12 名 準 2 級 20 名 3 級 21 名 4 級 68 名 5 級 27 名	2 級 (6 名)+4 名 準 2 級(16 名)+5 名 3 級 (30 名)+14 名 4 級 (21 名)+56 名 5 級 (23 名)+26 名 計 96 名+105 名 =201 名	85 名	2 級 (5 名) 準 2 級(9 名) 3 級 (26 名) 4 級 (25 名) 5 級 (20 名)
漢字検定	77 名受検	準 2 級 5 名 3 級 20 名 4 級 7 名 5 級 4 名 計 36 名	109 名受検	準 2 級 1 名 3 級 19 名 4 級 13 名 5 級 16 名計 49 名
文章検定	2 年 161 名受検	4 級 148 名合格		
税の作文	3 年全員	6 名入賞(1 名朗読)	3 年全員	8 名入賞(1 名朗読)
税の標語	3 年全員	最優秀賞 1 名 優秀賞 2 名	3 年全員	優秀賞 2 名(3 年)
JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト			1 名	
人権啓発詩・読書感想文				
学芸サイエンス コンクール★	書道部門		37 名	
	小説部門		1 名	
	詩部門			
	読書感想文部門	1 年 4 名		7 名
	作文部門		1 名	
わたしたちのくらしと生命保険作文コンクール	1 年 9 名		5 名	
手紙作文 コンクール	はがき部門		13 名	
	絵手紙部門			
映画感想文コンクール			14 名	
“社会を明るくする運動”作文				
思わず笑顔になる文章コンテスト			2 名	優秀賞 1 名
河野裕子短歌賞			2 年全員	入賞 2 名
青少年読書感想文全国コンクール	1 年 3 名	市学校図書館協議会長賞 1 名	2 名	
大阪市人権啓発キャッチコピー	2 年全員 1 年 34 名	大阪市長賞 1 名 優秀賞 1 名 佳作 1 名	2 年全員	
西区人権啓発標語	2 年全員		2 年全員	
私の折々のことばコンテスト			33 名	
全国小・中学校作文コンクール (読売新聞社)	1 年 27 名		19 名	入賞 1 名
海の作文	1 年 22 名	佳作 2 名		
国際理解協力のための全国 中学生作文コンテスト(国連)	1 年 8 名			
産経ジュニア書道コンクール	3 年 1 名	ジュニア賞 1 名(3 年)		
全日本小・中学生書道紙上展		入選ベスト 100 3 年 1 名・1 年 1 名		
総文祭出展	3 年 14 名 2 年 6 名 1 年 2 名			
絵画・写真コンクール 《絵画の部》	2 年 75 名 1 年 4 名	佳作 1 名(2 年)	57 名	
大阪市読書感想画コンクール	2 年 5 名 1 年 3 名	優良賞 2 名(1 年)	7 名	優秀賞 1 名(3 年)
カードアート大賞展 2019	3 年 1 名			
ワールドトーク	2 年 1 名		3 年 2 名	
大阪市中学校 生徒理科研究発表会	200 名	1 年 7 名佳作 3 年 1 名優秀賞 (総文祭プレゼン発表)	2 年 1 名 1 年 12 名	優良 2 年 1 名 佳作 1 年 12 名
適切なネット利用対策実践事例プレゼンコンクール	生徒会	優秀賞		
大阪市中学校放送コンテスト新人大会				
計	約 1580 名	30 名	約 1230 名	26 名